

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

2020年度奈良市ESD連続セミナー

奈良教育大学 教育学部 社会科教育専修 3回生 足立 繁郁

1. 単元名

「戦争をしないために私たちが出来ることを考えよう」

2. 単元の目標

- ▶ 戦時中を生きた人の想いを捉え、戦争は体験した人達の心に深い傷をもたらすことを理解する（知識・技能）
- ▶ 今なお戦争が続いている現代を見つめ、国や組織が戦争をする理由を、現代に起きている問題と過去の問題を関連させながら考えられる（思考力・表現力・判断力）
- ▶ 自分たちも国民として、戦争を引き起こさないためにできることを考える学習を通して、戦争をしないための行動ができるようになる（主体的に学習に取り組む態度）

3. 単元について

（1）教材観

2015年9月の国連総会で、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられた。このSDGsの目標16（平和と公正をすべての人に）のターゲット16.1に「あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。」ことが掲げられている。しかしながら、2015年以降も世界では、戦争や紛争はまだまだ無くなっていない現状である。

本実践では、地域で戦争を体験した方との出会いから、戦争の恐ろしさ、非日常を実感し、戦争を無くそうと努力する地域の人々の営みに憧れ、自分たちも戦争の解決につながる行動を起こしていく学習である。その際、戦争の仕組みや解決法の理解、自分たちが戦争に巻き込まれないために、戦争が起こる前に自分自身ができることを考えることが大切だと考える。そこで「奈良での戦争体験」と「戦争のメカニズム」の二つのことを教材として学習する。

一つ目は、「奈良での戦争体験」である。ここでは、奈良で戦争を体験された鈴木知英子氏をゲストティーチャーとして児童に出合わせる。鈴木氏は、奈良で空襲の被害に遭われ、戦後も後遺症と闘い、現在語り部として戦争の体験を語り継いでいる方である。鈴木氏の戦争体験を児童が聞くことで、戦争の恐ろしさ（当たり前でない日常など）を実感するだろう。さらに、鈴木氏は戦争体験を伝えるだけでなく、「平和とは何か」「命とは何か」語り掛けてくれる。この語りを聞くことで子どもは、当たり前にあった平和について深く考えることができるだろう。そして、鈴木氏が戦争を無くすために努力している営みを紹介してもらおう。鈴木氏は、「子どもたちは、命のことについてあまり知らない。そんな子どもたちに命は一つしかないことをわかってほしい」という思いからこの活動を行っている。命の危機に直面し、命の大切さを実感した鈴木氏が語り継いでいる姿は、児童に大きな感動をもたせ、さらに自分もそうなりたいと憧れ、行動化につながるだろう。さらに鈴木氏はインタビューの中で「戦争は勝った方も負けた方も深

い傷を残します」ということを話してくれた。戦争はいけないものだということは分かっている児童に改めて、「戦争とはなにか」について投げかけ、戦争がもたらすものを児童に考えさせてくれると考えた。

二つ目は、「戦争のメカニズム」である。ここでは「りぼんぷろじえくと（2014）の『新・戦争のつくり方』に出合わせる。「新・戦争のつくり方」は、社会の仕組みが変化することで「日本が戦争をできる国になる」ということを九つの事例をもとに絵と文章で分かりやすく書かれてある。九つの事例の説明の後、文章は「戦争ができる国になりましたね」と続いていく。本書を児童と一緒に読み進めていくことで、社会システムの変化が、戦争を引き起こすメカニズムになっていることに気づくことができると考えた。一人の国民として、戦争に巻き込まれないために、社会システムに目を背けず、考え、行動を促していく教材である。

（2）指導観

はじめに、戦争という言葉聞いて思いつく場所を児童に聞く。原子爆弾が投下された広島や長崎、地上戦が起きた沖縄などが児童の考えとして挙げられるが、自分たちが住んでいる奈良でも空襲が起きたことを、実際に奈良市で焼夷弾が投下された「法蓮の空襲跡」を訪れ、児童に実感させる。実際に「法蓮の空襲跡」を訪れることで、自分たちの町にも戦争があったことに驚き、戦争が遠い存在のものではなくなる。「この場所で戦争を体験した人はどのような気持ちだったのだろう」という問いが生まれるだろう。

つぎに、奈良で戦争を体験されたゲストティーチャーの講話に移る。ゲストティーチャーに鈴木氏をお招きする。鈴木氏は「戦争がいかにいけないことか」を訴えるのではなく、「戦争が何をもたらすか」を訴える。鈴木氏の話聞く中で、児童は鈴木氏の体験と営みに想いを馳せる。また自分事でない「戦争とは何か」について、体験者の視点から、見つめるきっかけになるだろう。

そして、戦争を過去のものとして児童が考えないように、今も起きている現実を知り、どうして国や組織が戦争を今も起こしているのかについて児童に考えさせる。その際、太平洋戦争が起きている理由についても学習することで、現代と昔のつながりを意識できるようにする。戦争がどうして起こるのか「アメリカ同時多発テロとイラク戦争」と「太平洋戦争」が起きたきっかけから児童に考えさせる。両者は時間軸が異なるが、どちらも国や組織の「利益」や「報復」のために起きた戦争である。「国民一人ひとりの犠牲」を前記の鈴木氏の講話をもとにイメージしながら、国や組織が戦争を起こしていることを考えられるよう「戦争が起こるきっかけってなんだろう」という発問を軸に児童に考えさせる。

さらに、「りぼんぷろじえくと（2014）の『新・戦争のつくり方』を用いて、戦争が繰り返される前に国民一人ひとりができることを考えさせる。戦争はいけないことという実感を持ち、国や組織が戦争を起こすことを知った上で、「一人ひとりが戦争をしないためにできること」について交流を通して考え、戦争が繰り返される前にできる行動を自分事として考えられるようにする。児童は学習を通して、「社会や国で起きていることに興味を持って、行動することが大切」という行動への意欲が見られる発言を出すだろう。最後の時間に向けてこの時間では、児童の行動したいという意欲を持たせる。

最後に、鈴木氏と連携して「語り部継承プロジェクト」を行う。児童が実感してきた「戦争の恐ろしさ」や、本単元で考えてきた「戦争を繰り返さないために自分自身ができること」を地域の人達に伝える。「戦争の恐ろしさ」については、鈴木氏の講話を踏まえて、自分がどのように感じたのかについて伝えるよう指導する。ポスターや新聞、パワーポイントなどを用いて、鈴木氏のアドバイスをもらいながら児童は発

表資料を作成し、地域の方々に発表する。児童は知り、考える側から、伝え、相手を考えさせる側へ変容できるよう指導する。

4. ESDとの関連

① ESDの視点

➤ 相互性

戦争が起こるきっかけは、昔も今も国や組織の「利益」や「報復」であることが多い。昔と今の戦争を別の視点で見るとはならず、つながりを意識して見ることができる。

➤ 責任性

戦争体験を語り継ぐ鈴木氏の想いに児童は胸を馳せ、語り継いでいく責任性を実感できる。
また、戦争を繰り返さないための自分自身の行動を考え、地域の人達に伝えることで、一人ひとりが自覚をもって、平和な社会の実現を目指していくことができる。

② 育てたい ESDの資質・能力

➤ 進んで参加する態度

児童がこれから平和な社会を作っていく一員として、再び日本で戦争を繰り返さないために、進んで行動していこうとする態度を育てる。

③ 育てたい ESDの価値観

➤ 世代間の公正

鈴木氏の戦時中の体験、戦後の営みを児童が聞く中で、「戦争」を軸に過去と今をつなげることができる。また、過去の出来事と現代の問題のつながりを意識しながら、これから起こりうる可能性を示唆することで、過去と今、そして未来をつなげることができる。

➤ 人権・文化・平和を尊重できる


本単元で「戦争はだめだ」とは教えない。戦争や平和について児童自身が考え、自分なりの答えを見つける。児童が見つけた答えは、自分事としてこれからも尊重していくことができる。

④ 達成に貢献すると思われる SDGs

➤ 16 平和と公正をすべての人に

5. 単元計画 (13 時間)

	○学習活動 ・児童の発言	学習の支援、指導上の留意点	評価
み つ め る (① ②)	<p>(問い) 奈良にも空襲はあったのだろうか？</p> <p>○実際に法蓮の空襲跡を訪れ、奈良で戦争があったことについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島や長崎は有名だけれど、奈良も空襲の被害を受けたんだね ・奈良で戦争を体験した人はどのような経験をしているのだろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・法蓮の空襲跡に児童を連れていき、戦争が身近に起きていたことについて実感させる。 	

<p>み つ め る (③ ④)</p>	<p>(問い) 戦争は体験した人に何をもたらすのだろうか ○鈴木氏の講話を聞き、「戦争とは何か」について考 える。 ・戦争は体験した人の心に、生涯深い傷をもたらす ものだ。 ・鈴木氏は戦争を無くしていくために取り組んでこ られているんだ。</p>	<p>・鈴木氏の講話をただ聞くので はなく、「戦争は体験した人に何 をもたらすのか」という視点で 聞くよう促す。</p>	
<p>し ら べ る (⑤ ⑥)</p>	<p>(問い) 戦争って無くなりましたか？ ・日本ではないのかも ・世界では起きている気がする (問い) 戦争って、誰が起こしているの？ ・国かなあ ○学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>なぜだめだとわかっている戦争が今なお繰り返されるの？</p> </div> <p>○戦争が起こるきっかけを、「アメリカ同時多発テ ロ・イラク戦争」「太平洋戦争」から考える。 ・アメリカ同時多発テロのきっかけは、組織による “報復”なのかも。 ・イラク戦争は“報復”戦争って呼ばれるんだね ・太平洋戦争は、日本が領土拡大っていう“利益” を求めすぎたことがきっかけになっているのかな ・真珠湾攻撃に対する“報復”で戦争が激化したの かな ・アメリカは日本への資源輸出を止めたよね。日本 は“利益”が得られなくなったのかも。</p> <p>・国や組織は、“利益”や“報復”のために戦争をす るのかもしれない</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>戦争をしないために私たち（国民）に出来ることって何だろう？</p> </div>	<p>・今も起きている戦争、紛争一 覧を示す (📄) ・戦争は国や組織が起こしてい ることを伝える。</p> <p>・アメリカ同時多発テロ (📄)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>・アメリカ同時多発テロが起こ るきっかけと、その後のイラク 戦争について (📄) (📄)</p> <p>・太平洋戦争は教科書から学ぶ</p> <p>・本学習の振り返りは、戦争を 体験する国民の視点で見たとき の感想を書かせる</p>	

<p>ふかめる ⑦ ⑧ ⑨</p>	<p>○戦争ができる国になるための仕組みの変化（事例）について知る学習から、その仕組みが確立されるとどうなるのかについて考える。</p> <p>九つの事例があるので、それぞれ一つずつ考え、交流する。</p> <p>（問い）九つの事例に対して、このような事態にならないために国民としてなにをすべきか、なにができるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の小さな変化に気づくべき ・情報を正確に読み取り、鵜呑みにしないことができる ・社会を一人ひとりが見つめ、行動できることが大切だね <p>○自分たちができることについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・りぼんぶろじえくと（2014）の『新・戦争のつくり方』から九つの仕組みの変化の事例をもとに考えさせる。 ・鈴木氏にも来てもらい、戦争体験者として評価をしてもらう。 	
<p>ひろげる ⑩ ⑪ ⑫ ⑬</p>	<p>○「語り部継承プロジェクト」で、地域の人達に「戦争の恐ろしさ」や「自分が考える平和」について訴えかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿や発表資料（紙芝居、パワーポイントなど）の作成の支援を行う。 ・地域の人達とあらかじめ連携を取り、児童の話を聞いてもらえる場を準備する。 	

6. 単元構想図

(導入) 奈良は空襲があったのかな

広島や長崎は有名だけど奈良はあったのかな

奈良での戦争ってどんなものだったのだろう

(FW) 法蓮の空襲跡

焼夷弾が投下され市民が犠牲になった場所で、奈良県立大学のすぐ近くにある実際に戦跡が残っているわけではないが奈良で空襲があったことが実感できる

奈良で空襲があったんだね

奈良で戦争の被害に遭われた方ってどんな体験をされているのだろう

(GT 講話) 戦争は体験した人になにをもたらすのだろう

戦争は体験した人の心に生涯深い傷をもたらすものだ

戦争をなくすために取り組んでこられたのだな

戦争は恐ろしいもので、なくすために取り組んでこられている

なぜダメだとわかっている戦争が今なお繰り返されるのだろう

報復や利益の追求が戦争につながるの？

サウジに侵攻したアメリカへの恨み

国や組織の意向で国民が悲しい思いをするんだ

鈴木氏「戦争は勝った方も負けた方も深い傷を残します」

戦争をしてはいけない！

(中心発問) 戦争をしないために私たち(国民)に出来ることって何だろう

「新・戦争のつくり方(りぼんぷろじえくと著)」の戦争ができる国になるための九つの社会システムの変化から、国民としてそのような事態に陥らないために何をすべきか、何ができるか検討

社会の小さな変化に気づく

情報を正確に読み取る

情報をうのみにしない

社会を一人ひとりが見つめ行動できることが大切だね

(行動化) 語り部継承プロジェクト

子どもたちが地域の人達に向けて、「戦争の恐ろしさ」についてや、自分が考える「どうすれば平和になるのか」について訴えかける。戦後 76 年を超えた今、子どもたちが伝える側にまわる経験をし、戦争の記憶や平和への願いを風化させないプロジェクト!